

4 分析結果の概要（詳細分析は、8ページから24ページに掲載）

(1) 論理的な文章（大問〔一〕）を読む力について

長谷川^{かひ}權『和の思想』から出題した。「和」とは異質のものを調和させる力を指す語であるということ^{かひ}を具体例を引きつつ述べた文章である。キーワードを言い換えた部分を指摘する小問では上・中位層の正答率が高いにもかかわらず、これを具体例によって説明する設問では上位層と中・下位層との差が大きい。抽象的な表現と具体例との対応を説明するなどの学習活動によって主体的な読みを促す指導が必要である。

(2) 文学的な文章（大問〔二〕）を読む力について

佐藤多佳子の小説『一瞬の風になれ』から出題した。才能豊かなスポーツ選手である兄にあこがれと劣等意識を抱いていた弟が、兄が弟である自分を競技者としても認めていてくれたことに思い至る場面である。「酸性の液体」に例えられるような複雑な喜び等の細やかな心情を、本文の描写に従って読み取らせる指導が必要である。

(3) 国語基礎力（大問〔三〕）について

設問は、実践的な道案内の会話文、熟語の構成、外来語の意味、漢字の読み書きについて出題した。国語基礎力に関しては、抽出校を対象に読書等の日常的な言語体験に関する事後調査を実施して分析に活用しており、日常的使用例の少ない語だけでなく、接する機会是比较的多い「ジレンマ」等外来語の理解度も低い。言葉の使い分け等について関心を高めるための指導が必要である。

(4) 古文（大問〔四〕）を読む力について

『徒然草』第二百七段より出題した。大臣の迷信に囚われない合理的な判断を共感を込めて述べた章段である。自分自身の感覚だけでなく、筆者の描写や感想からこの逸話を書き留めた意図を理解させるための工夫が必要である。